

【1歳児クラス】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	調布市立下布田保育園
施設所在地	調布市布田2-27-4

1. 活動のテーマ

<テーマ>

氷

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
水遊びの時に、水に限定せず氷なども用意し自由に触ることも楽しんでいた。氷を触って水とは違う感触の氷に興味が出てきたことから「氷」をテーマに設定。氷の特性や変化などを観察し興味関心をさらに深めることを目的としました。

2. 活動した時期

令和7年9月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
環境設定として、氷とジブロックを人数分用意しました。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ジップ付きのビニール袋に氷を入れて、触ってみる体験をしました。ビニール袋に入れて触り、氷が解ける過程や硬さや冷たさなどの変化について観察しました。

探究活動の様子を写真で記録する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「氷ってとけたらどうなるかな？」を問いとし設定しました。中には「溶けたらなくなる」と想像する姿も見られました。ジップロックに氷を入れて渡すと「冷たい」「かたいね」など声をあげたり何度も握りなおしたりする姿がありました。氷が少しずつ小さくなっていく様子をじっと見つめ、不思議そうな表情を浮かべる児もいました。保育者が「さっきよりも小さくなってきたね」と声掛けをすると、袋の中をのぞき込み、「みず」と気づきを共有しようとする姿が見られました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

ジップロックに氷をいれたことで、個体であった氷が時間経過とともに水へと変化していく様子を継続してみることができました。また、水に変わった後も遊びを継続することで、冷たかった水が温くなっていく変化にも子どもたち自身で気づく姿が見られました。本活動で氷だけではなく、水にも興味関心が広がったと感じました。

【2歳児クラス】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	調布市立下布田保育園
施設所在地	調布市布田2-27-4

1. 活動のテーマ

<テーマ>

フィンガーペイント

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
日頃から様々な素材を使った製作活動を楽しみ、どんな製作活動でも、掌や腕にまで使って感触を楽しんでいることから、絵の具を使った「フィンガーペイント」を行い、感触だけでなく、絵の具の混ざりあう色の変化など興味関心を深めることを目的としました。

2. 活動した時期

令和7年8月～令和7年9月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・ダイナミックに感触遊びを没頭できるよう場所はテラスにしました。
・2台の机の上に直接複数の絵の具を垂らして手で伸ばして感触を楽しみました。窓にもつけて絵を描いてみるなど楽しみました。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ 赤，青，黄色，黄緑色などの絵の具を用意し，机の上で手で混ぜ変化を楽しみました。色の変化や感触遊びに没頭していました。
- ・ 探究活動の様子は写真で記録しました。

<活動中の子供の姿・声，子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容，活動中見られた子どもの姿，保育者との関わり等）

保育者は「赤と黄色を混ぜたらどんな色になるかな？」「青と黄色で何色になるかな？」など子どもたちに問いかけました。子どもたちは実際に保育者が混ぜ合わせた色を見て「緑になったね！」と発見し，驚いていました。次々に他の色も混ぜ合わせ，子どもたち自ら「紫になったよ！」，「なんかすごい色になった！」など様々な発見がありました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

子どもたちは赤や青の絵の具を混ぜると紫になったね，黄色と赤でオレンジになったねと発見することができました。また，大胆に絵の具に触れることで，ねっとりとした感触を味わうことができたととても楽しそうでした。後半は絵の具を手付けて机以外にも窓に絵の具を塗って丸や四角などを描いて友達と一緒に絵を描くことを楽しんでいました。

【3歳児クラス】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	調布市立下布田保育園
施設所在地	調布市布田2-27-4

1. 活動のテーマ

<テーマ>

どんぐり

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
自然豊かな散歩先が多く自然の素材を取り入れる機会が多い当園の特徴を活かし、「どんぐり」をテーマとして設定しました。どんぐりを拾い「これは名前あるの？」という素朴な疑問から図鑑で調べようとする姿が見られたことから、どんぐりの見分け方や特徴など子どもたちの興味関心をさらに深めることを目的としました。

2. 活動した時期

令和7年9月～令和7年10月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
環境設定としてどんぐりが探せるような散歩先を設定したり、図鑑や見分け表などを活用できるように用意しました。製作では落ち葉やどんぐりに表情をつけたり動きをつけた表情ができるように丸シールやマーカーを用意しました。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

どんぐりを収集して様々な種類のどんぐりを探しました。製作では落ち葉も一緒に使用して「落ち葉・どんぐりアート」を実施しました。

どんぐりを収集した際は図鑑を使用し種類や特徴を見分けました。様々などんぐり落ち葉を使用し想像力をふくらませながら自由に表現することを楽しみました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「模様があるね」「これとこれは同じどんぐり?」どんぐりをよく観察できるような問いを設定しました。

落ち葉の大きさ・色・形を見て「猫みたい」「穴が目みたい」と動物に見立てながら製作を楽しんでいました。どんぐりの形を友だちと見比べて「これはブナ?」「ここが長いから違うんじゃない?」と意見交換をしていました。別日でも散歩で落ち葉やどんぐりを見つけると「こうやったらゾウに見えるよね」と想像をふくらませて楽しむ姿がみられました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

どんぐりの特徴からどんぐりの種類を見分けようとしていた時に匂いを確かめようとする姿がみられました。どんぐりの匂いを嗅いだことはなかったのでおもしろい発想だと思いました。落ち葉・どんぐりアートでは動物などに見立て想像力を広げて楽しむことができていました。どんぐりだけではなく落ち葉を利用したことで表現の幅が大きく広がったと感じました。

【4 歳児クラス】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	調布市立下布田保育園
施設所在地	調布市布田2-27-4

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ごっこあそび

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
毎年行っているごっこ遊びを子どもたちは楽しみにしています。そこで、絵本などで大好きなおばけを題材におばけになりきることや、おばけ屋敷を表現することをテーマに設定しました。子どもたちの主体性を大切にしながら、クラス全体で目標を達成する経験をしたいため、まずはやりたい役割を選んで、クラス内でごっこあそびを楽しみながら進めました。

2. 活動した時期

令和7年8月～令和7年9月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
おばけを作る紙や絵の具、クレヨンを用意しました。室内全体をお化け屋敷に見立て、テーブルなどを配置し室内1周回れるようなレイアウトを作りました。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

おばけやしきで使用するビニール袋おばけや大道具、看板などを子どもたちと一緒に製作し、当日を楽しみにしながらイメージを高めていきました。おばけやしきの中でどう動くかについては、静かに待って、人が通ったらおどろかせよう、こんな声ならこわいかなど試行錯誤をし、探究していきました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「おばけやしきにはどんかおばけを出そうか?」「どうやっておばけになる?」を問いとして設定しました。クラスでの練習の際は、タイミング良く脅かせたり、最後までお化けの役割ができたことを褒め、当日までのモチベーションがあげられるようにしました。最終的に、子どもたちが好きなお化けを決め、当日は役割を決めてできるようにしました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

ごっこあそびに参加するのはとても楽しみにしている児が多く、回数を重ねるうちに役割にも慣れ、友だちと一緒におばけ屋敷を作りあげていくことに喜びを感じている様子でした。当日は他クラスのお客さんが来て、クラスだけでやる活動とは違い、他クラスに自分たちが作りあげてきたものを披露する機会を楽しんでいる様子でした。

【5歳児クラス】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	調布市立下布田保育園
施設所在地	調布市布田2-27-4

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
プールや水遊びを毎年行い、園児が水に親しんでいるため設定しました。
水遊びを通して、水の不思議に興味を持ち、「なんで?」「どうして?」と遊びながら実験をして、子ども達の興味関心をさらに深めることを目的としました。

2. 活動した時期

令和7年8月・9月の計2回

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
①数個のバケツを用意して、水を入れて様々な変化を見比べられるようにする。
②水の深さによって色の変化を見れるように長い袋を用意する。
③泡を追加して変化を感じられるようにする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①バケツに入れた水を日の当たる場所と日陰に置いて、水の温度が変わるのか実験をしました。
- ②色水・泡色水で遊んだあと、傘袋に入れて色の変化や、水の量によって変化する感覚などの発見を味わいました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ①たくさんのバケツに色を混ぜて遊んでいるうちに、「つめたい～」「えっこっちはあったかいよ～」と水温の違いを感じて話題になっていました。「なんでだろう」と保育者が伝えると「お日様だよ!」と考えだし日の当たる場所、日の当たらないところにバケツを置いて水温の変化をみる実験へと進展していきました。
- ②傘袋に泡色水をたくさん入れていると「色が違う!」と発見する。「なんでだろう」と保育者が問いかけると、「うーん泡があるからかな?」と考えていました。また、傘袋に一杯水を入れないと、傘袋が曲げられることに気が付きました。結ぶと腕につける浮き輪ができる!と喜んでいました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

子ども達は水遊びが大好きで、夢中になって水と触れ合って遊んでいます。その中で自然と湧き出る不思議や発見を友達や保育者に伝え、さらに興味を広げていきます。5歳児は、保育者がほんの少し「なんでだろう?」と子ども達に問いかけるだけで、生活の中で得た経験や知識を思い出しながら、自分たちで思いを巡らせて発見していく姿がとても印象的でした。